

平成 28 年度 長崎市自然環境調査報告書：植物

長崎市自然環境調査委員 中 西 弘 樹

I. 新しく発見された長崎市新産のもの

○コギヅル *Actinostemma tenerum* Griff. (ウリ科)

産地：宮崎町川原大池

ツル性の一年草で、水辺に生育します。果実は卵形で上半分は突起が散生し、下半分は平滑です。熟すと上半分がふたのように離れ、中に扁平な 2 個の種子が入っています。種子は水に浮き、散布されます。県内ではこれまで、諫早市、佐世保市、壱岐市、東彼杵町に記録されていますが、諫早市を除くとまれであり、生育地は限られています。



図 1. 市内で初めて発見されたコギヅル

II. 新しく発見された外来植物

○モミジヒルガオ *Ipomoea cairica* (L.) Sweet (ヒルガオ科)

旧三和町栄上町 (4829-76-76)

熱帯アフリカや東南アジアなどに広く分布していますが、原産地は熱帯アフリカと言われています。琉球列島には帰化しており、ややふつうに見られますが、ピンク色の花で、園芸種と思われます。それと同じタイプものが、市内栄上町で野生化しているのを発見しました。長崎県内では初めての記録です。琉球列島においても結実はまだで、主に栄養繁殖によって殖えます。熱帯起源のヒルガオ科植物はしばしば大繁殖し、周辺の植生に覆いかぶさり、他の植物に悪影響をおよぼします。

最近、県内でも広がっているオオバアメリカアサガオはその例です。モミジヒルガオも熱帯や亜熱帯ではそのような繁殖を示していますが、長崎市内では冬の寒さで繁殖は制限されるので、その可能性は低いと思われますが、今後注目していく必要があります。



図 2. 県内で初めて発見されたモミジヒルガオ



図 3. 斜面に群生するモミジヒルガオ

Ⅲ. 発見された貴重植物

○ウスギムヨウラン *Lecanorchis kiusiana* Tuyama (ラン科)

照葉樹林の林床に生育する腐生植物で、高さ 10～25cm、花は長さ約 1.5cm、薄黄色で筒形です。花後はしだいに黒色を帯びます。今年度は次の 3 ヲ所（神浦北大中尾町県民の森内、神浦扇山町、平間町）に多く生育しているのを発見しました。



図 4. ウスギムヨウラン
(県民の森付近 2016. 5. 30 撮影)



図 5. ウスギムヨウラン
(平間町 2016. 6. 1 撮影)

○コササキビ *Setaria plicata* (Lam.) T. Cooke (イネ科)

やや大型のイネ科の多年草で、葉はタキキビと似ており、幅 1.5～3cm となりますが、縦しわがあることが特徴です。インドから中国、日本に分布します。日本では四国（愛媛県）、九州、琉球に見られますが、生育地は少なく、多くの県では絶滅危惧種に指定しています。長崎県では長崎市、平戸市度島、西海市平島に知られていますが、長崎市の生育地が一番多く見られます。



図 6. コササキビ

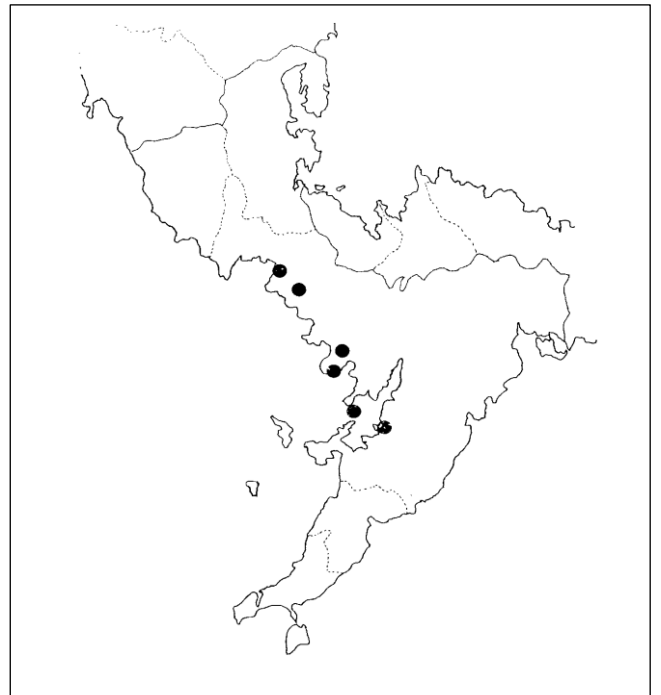


図 7. 長崎市におけるコササキビの分布

Ⅳ. 増加しつつある外来植物

外来種について、有害説と多様性が高くなってよいという説がありますが、これは種によって異なるみたいです。植物について言えば、外来種は全国で 1,200 種以上、長崎県では約 400 種が記録されています。その中で在来種の生育を阻害すると考えられるものは、その 10 分の 1 以下と考えられます。長崎市においては、最近になって急に繁殖しはじめ、有害と見なされるものに以下のものがあります。

○ナルトサワギク（コウベギク）*Senecio madagascariensis* Poir.（キク科）

阪神大震災以後、関西地方で発見され、広がり始めました。長崎県内では 1995 年ごろから各地で見られるようになりました。種子は風によって散布され、裸地ができると先駆的にいち早く侵入します。季節に関係なく、ほぼ年間を通じて多くの花が咲くため、種子の生産が多く広がりやすいです。道路工事などによってできた法面や裸地などによく見られますが、近年は海岸に侵入し始めました。風によって種子が散布されるために、長崎市の無人島にも生育していることが発見されています。



図 8. 見崎町田熊の浦の海岸に生育しているナルトサワギク (2016 年 12 月)

○タテバチドメグサ *Hydrocotyle vulbaris* L.（セリ科）

ヨーロッパ原産の水生植物で、熱帯魚の水草として導入されたもので、相川湿地では 2012 年に長崎市で初めて記録されました。2016 年には上段から中段にかけて約 400m²に渡って広がっています。また、小江原町の溜池にも広がっており、在来水生植物や湿地植物の生育地を被っています。



図 9. 湿地全面に広がりつつあるタテバチドメグサ (2016 年 12 月)